

# 2010年度 決算説明会

2011年6月9日



## 2010年度 決算説明会

### I. 2010年度 実績

### II. 2011年度 見通し

### III. 事業環境、課題と対応

# 2010年度 連結決算要約

(単位:億円)

	2009年度	2010年度	差異
売上高	216.9	281.4	64.5
営業利益	△15.5	△45.0	△29.5
経常利益	△21.7	△53.8	△32.1
当期純利益	△26.5	△55.1	△28.6
1株あたりの 当期純利益(円)	△43.7	△90.8	
配当金(円/株)	5.0	5.0	

## 2010年度 セグメント別売上高・営業利益

(単位:億円)

売上高	2009年度	2010年度	差異
金属チタン事業	137.0	197.7	60.7
機能化学品事業	79.9	83.6	3.7
合計	216.9	281.4	64.5

営業利益	2009年度	2010年度	差異
金属チタン事業	△15.0	△40.3	△25.3
機能化学品事業	17.8	13.7	△4.1
全社費用	△18.4	△18.4	-
合計	△15.5	△45.0	△29.5

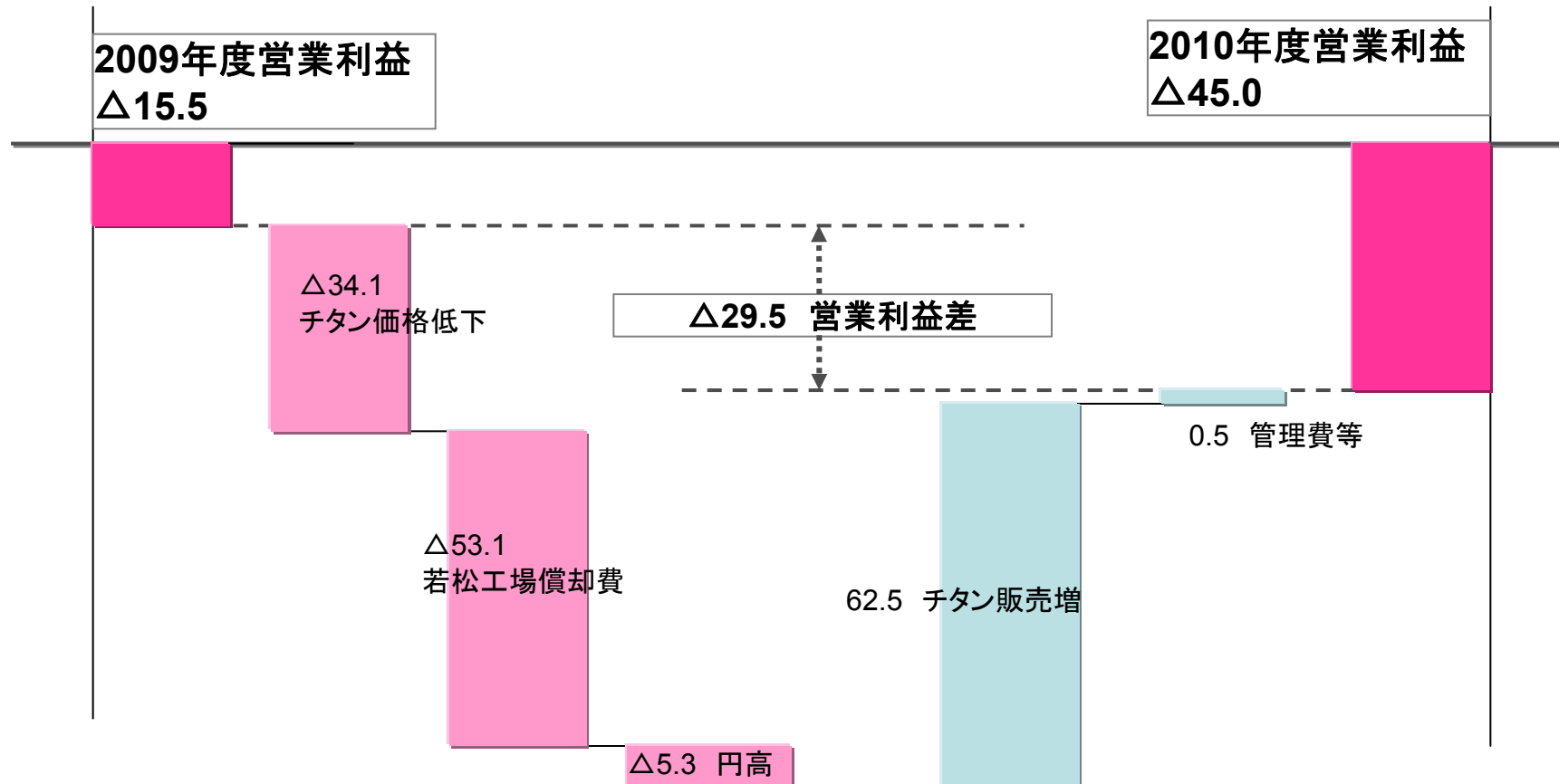
## 2010年度 金属チタン生産量・販売量

(単位:トン)

	2009年度	2010年度	差異
スポンジ生産量	7,700	14,800	7,100
スポンジ販売量	4,100	8,600	4,500
展伸材向け	2,600	6,000	3,400
鉄鋼添加材向け	1,500	2,600	1,100
インゴット販売量	3,700	7,800	4,100
販売量合計	7,800	16,400	8,600
内数 外部原料出	1,500	1,700	200

# 2010年度 連結当期営業利益 増減要因

(単位: 億円)



# 2010年度 貸借対照表

(単位:億円)

	2009年度末	2010年度末	差異	差異内訳
<b>(資産の部)</b>				
流動資産	180	212	32	売上債権12、棚卸資産22
固定資産	715	673	△42	設備投資39、減価償却△93、リース資産64、資産売却△37
資産の部合計	895	885	△10	
<b>(負債の部)</b>				
借入金	489	476	△13	短期13、長期△26
その他負債	57	118	61	リース債務56
<b>(純資産合計)</b>	349	291	△58	当期利益△55、配当支払△3
負債・純資産合計	895	885	△10	
(自己資本比率:%)	39	33		

# 2010年度キャッシュフロー

(単位:億円)

	2009年度	2010年度	差異	差異内訳
税前当期純利益	△18.9	△51.1	△ 32.5	
償却費	42.2	93.1	50.9	
その他	12.0	1.7	△10.3	
営業キャッシュフロー(計)	35.6	43.7	8.1	
有形固定資産の取得	△194.8	△52.3	142.5	
その他	△7.6	△3.6	4.0	
投資キャッシュフロー(計)	△202.4	△55.9	146.5	
借入金増減	133.5	△12.9	△146.4	短期 △22.0 長期△124.4
配当支払	△3.0	△3.0	—	
その他	△4.5	23.6	28.1	セール&リースバック 35.0
財務キャッシュフロー(計)	126.0	7.7	△118.3	
差引バランス	△40.8	△4.5	36.3	

## 2010年度 決算説明会

I. 2010年度 実績

II. 2011年度 見通し

III. 事業環境、課題と対応

## 2011年度見通し:連結

(単位:億円)

	2010年度実績	2011年度見通し	差異
売上高	281.4	389.0	107.6
営業利益	△45.0	9.0	54.0
経常利益	△53.8	3.0	56.8
当期純利益	△55.1	8.0	63.1
1株あたりの 当期純利益(円)	△90.8	13.2	

## 2011年度見通し:セグメント別売上高・営業利益

(単位:億円)

売上高	2010年度実績	2011年度見通し	差異
金属チタン事業	197.7	276.0	78.3
機能化学品事業	83.6	112.0	28.4
合計	281.4	389.0	107.6

営業利益	2010年度実績	2011年度見通し	差異
金属チタン事業	△40.3	13.0	53.3
機能化学品事業	13.7	18.0	4.3
全社費用	△18.4	△22.0	△3.6
合計	△45.0	9.0	54.0

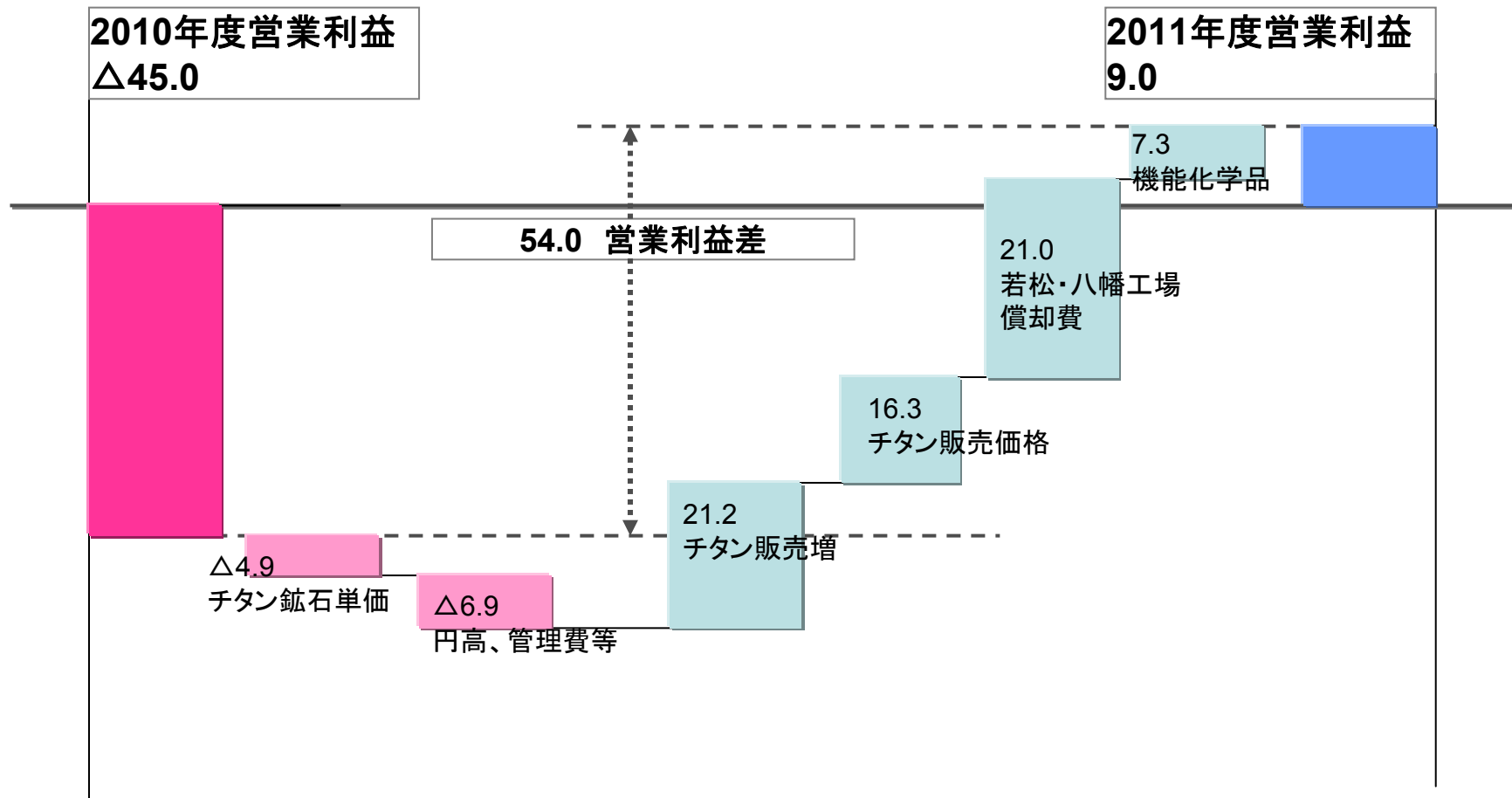
## 2011年度見通し：金属チタン生産量・販売量

(単位:トン)

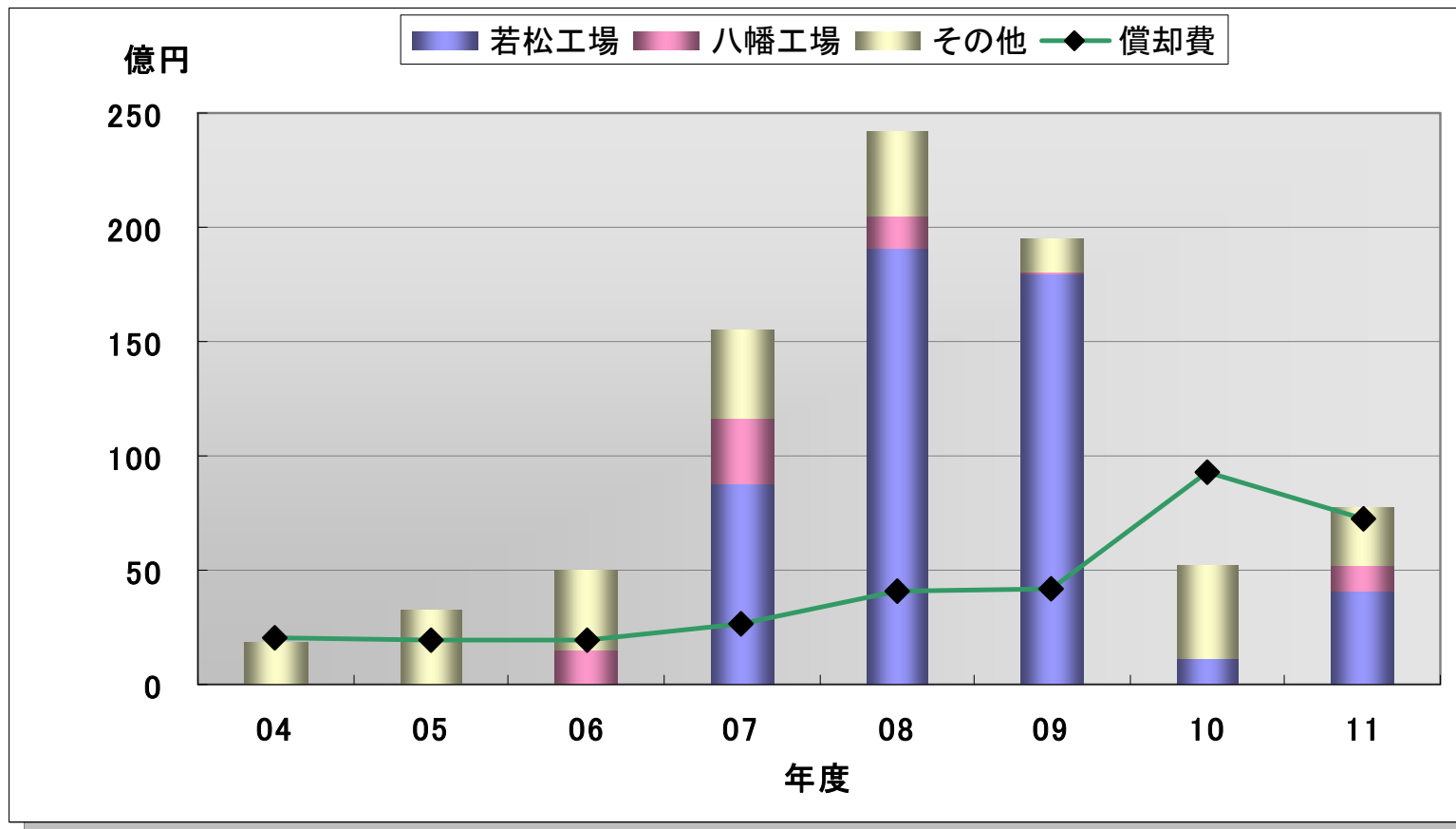
	2010年度実績	2011年度見通し	差異
スポンジ生産量	14,800	22,800	8,000
スポンジ販売量	8,600	11,800	3,200
展伸材向け	6,000	8,800	2,800
鉄鋼添加材向け	2,600	3,000	400
インゴット販売量	7,800	10,800	3,000
販売量合計	16,400	22,600	6,200
内数 外部原料出	1,700	1,800	100

# 2011年度見通し: 連結営業利益 増減要因

(単位: 億円)



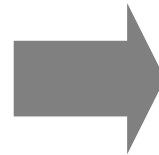
# 2011年度見通し：設備投資・減価償却費



## 2011年度見通し：減価償却費(耐用年数)の見直し

チタン製造関連(若松工場及び八幡工場)の機械装置の経済耐用年数を実績・実態に合わせ変更

従来(2010年度まで)  
機械装置の耐用年数 7年  
(定額法にて減価償却)



今後(2011年度より)  
機械装置の耐用年数 15年  
(定額法にて減価償却)



減価償却費影響額(対2010年度): (○)約28億円  
但し、2011年度の損益への反映額は約(○)21億円

## 2010年度 決算説明会

I. 2010年度 実績

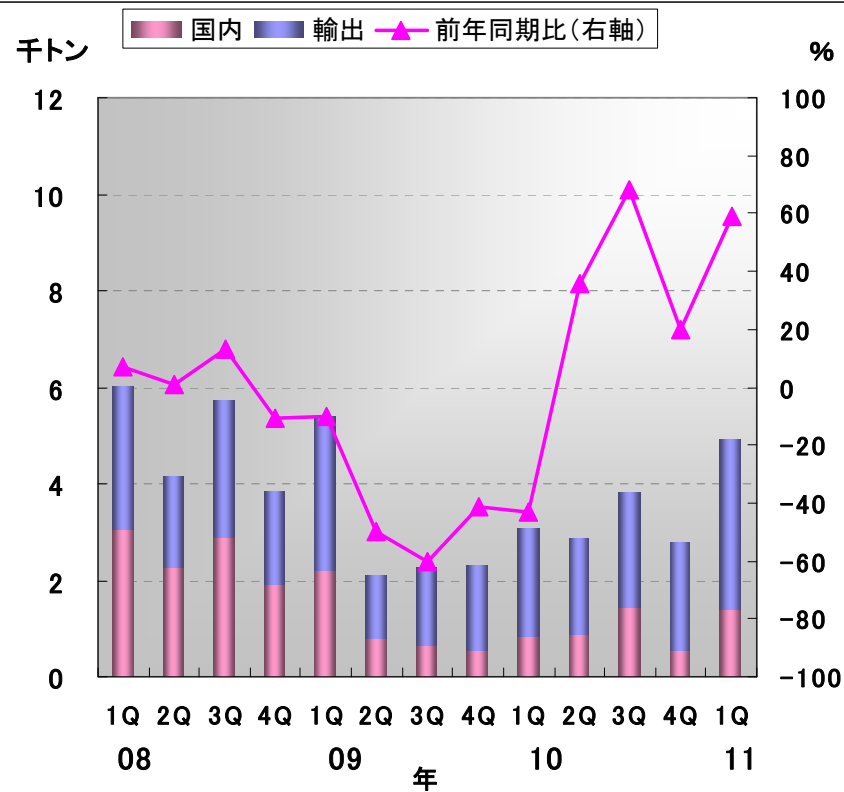
II. 2011年度 見通し

III. 今後の事業環境、課題と対応

# 金属チタンの事業環境

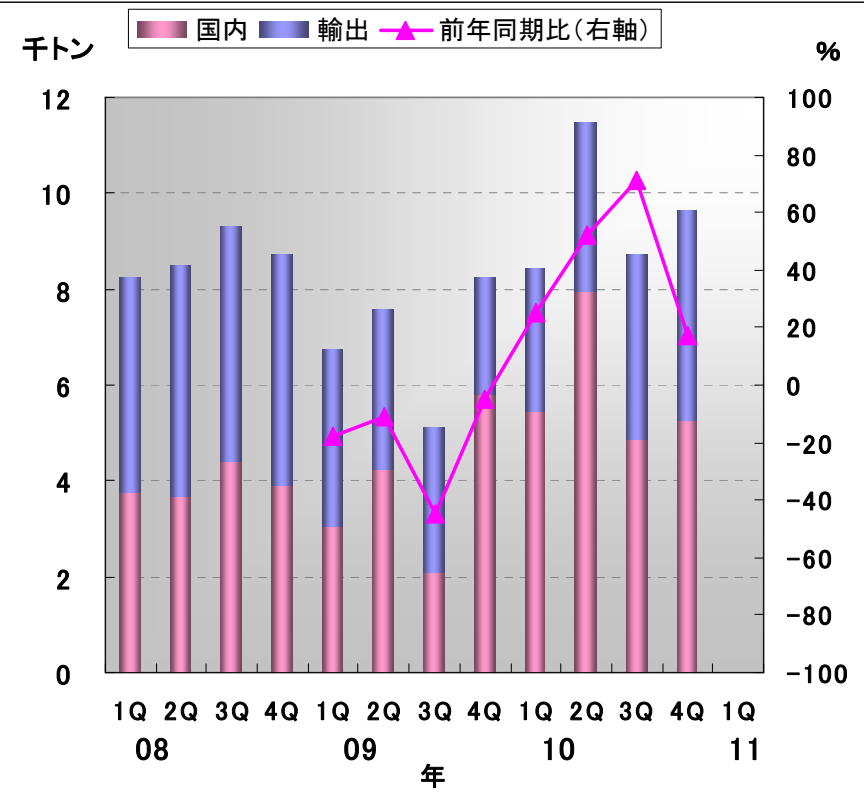
## “チタン市況の回復”

国内展伸材出荷実績



日本チタン協会より

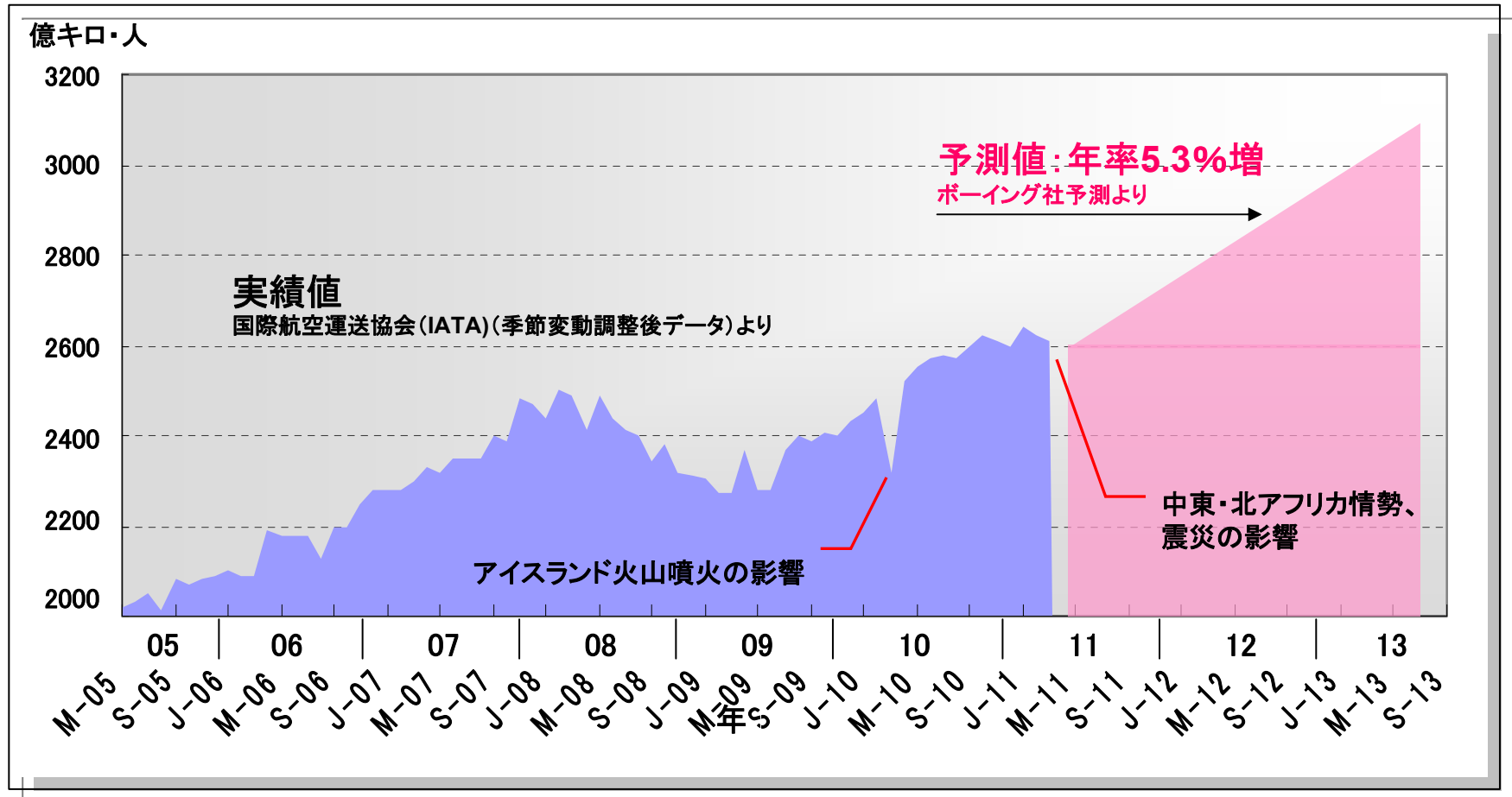
米国展伸材出荷実績



U.S. Geological Surveyより

民間航空機 有償旅客キロ推移

“航空機旅客数は今後も堅調に増加”



# 航空機 納入機数予測

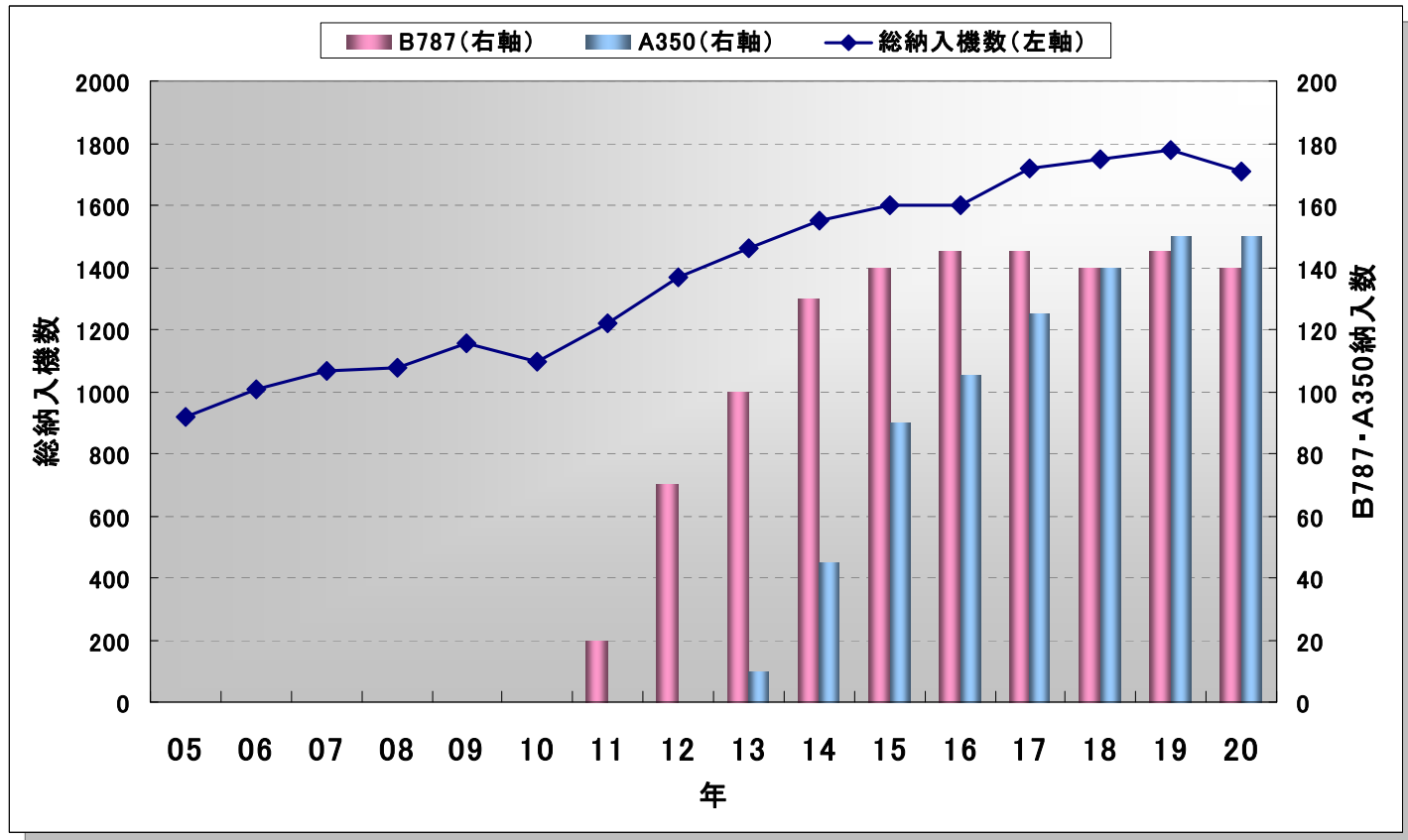
## “B787納入開始、生産本格化”

“B787フライトテスト  
順調に推移”

ロールスロイス : 95%完了  
GE : 75%完了

“近々型式証明取得”

“7月、日本に飛来  
8~9月全日空納入”



エアラインモニター(2011年2月)より

# 航空機 機種別チタン使用量と受注残

“航空機受注残は約7年分”

機種名	民間航空機受注残 (2011年4月:日本航空機開発協会より)	1機当りのチタン使用量(トン) (buy-weight 当社推定)
B737	2,139	20
B747-8	109	76
B767	52	19
B777	282	64
B787	831	136→105
Boeing計	3,413	

A318	9	14
A319	248	14
A320	1,877	12
A321	233	12
A330	346	20
A340	4	36
A350	574	102
A380	189	118
Airbus計	3,480	

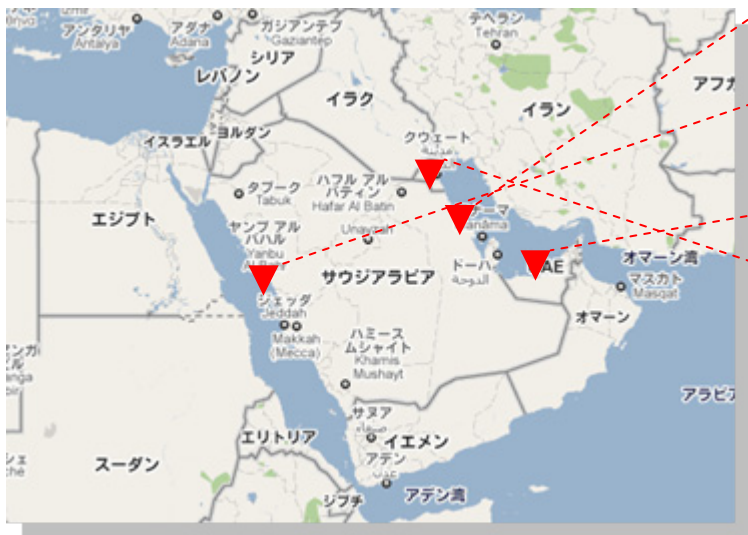
合計	6,893	
----	-------	--

# 海水淡水化プラント計画

## “中東の大型海水淡水化プラントでのオールチタン化”



従来のキュプロニッケル(CuNi)管からチタン管へのシフト



国	Project	造水規模 造水方式*
サウジアラビア	Ras Al Zour チタン管 6200トン	102万m <sup>3</sup> /日 MED/MSF
サウジアラビア	Yanbu 3	55万m <sup>3</sup> /日 MED/MSF
UAE	Taweelah-C (Abu Dhabi)	45万m <sup>3</sup> /日 MED/MSF
クウェート	Al Zour North Phase 1	46万m <sup>3</sup> /日 (Phase 4まで 127万m <sup>3</sup> /日)

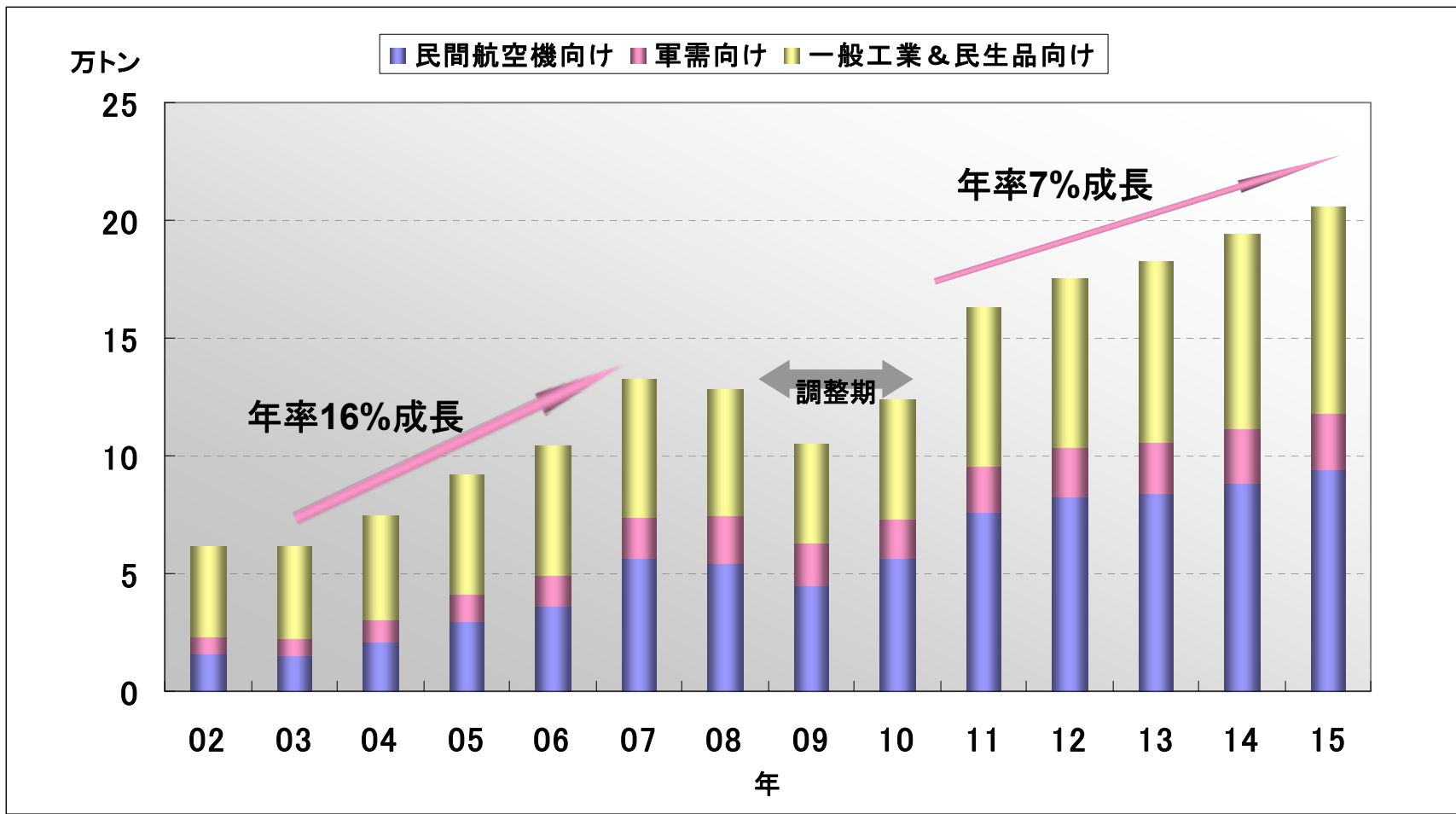
\* 造水方式

MSF: Multi Stage Flash Distillation 多段フラッシュ方式

MED: Multi-Effect Desalination 多重効用法

# 展伸材用スポンジチタン需要 実績と予測

“調整期から長期的な成長モードへ”

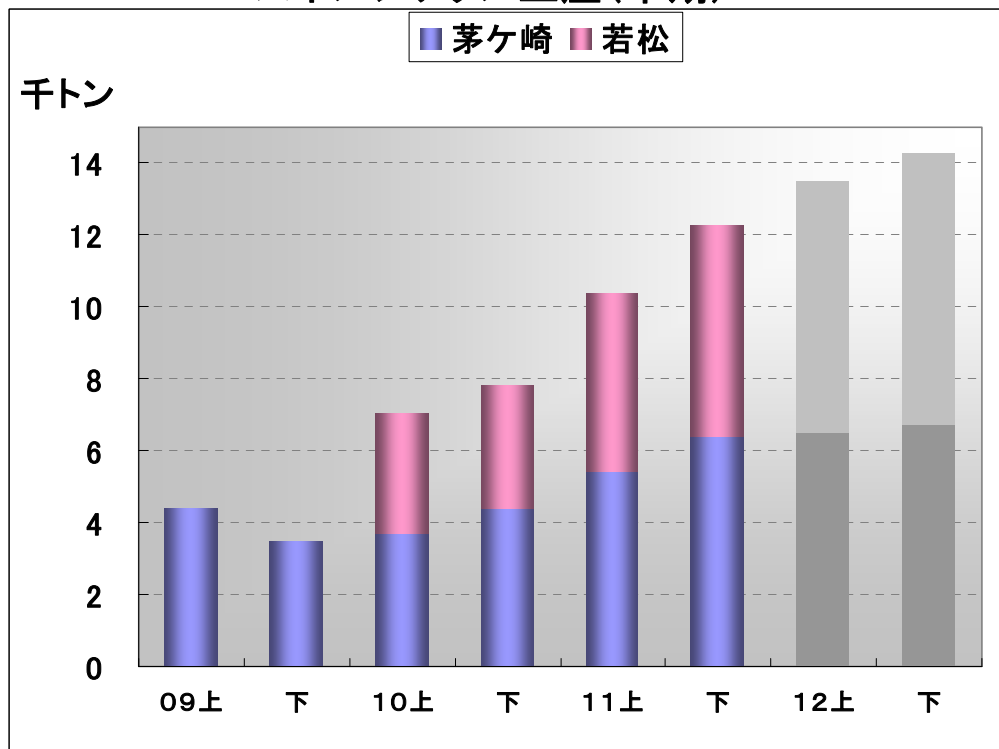


当社推定 (鉄鋼添加用を除く)

# 金属チタン事業の課題と対応：スポンジチタン

## “茅ヶ崎・若松工場の順次増産、若松増強工事開始”

スポンジチタン生産(半期)



スポンジチタン生産能力(トン/年)

	茅ヶ崎	若松
09年	14,400	
10年上	14,400	12,000
10年下	13,800	12,000
11年上	13,200	12,000
11年下	13,200	12,000

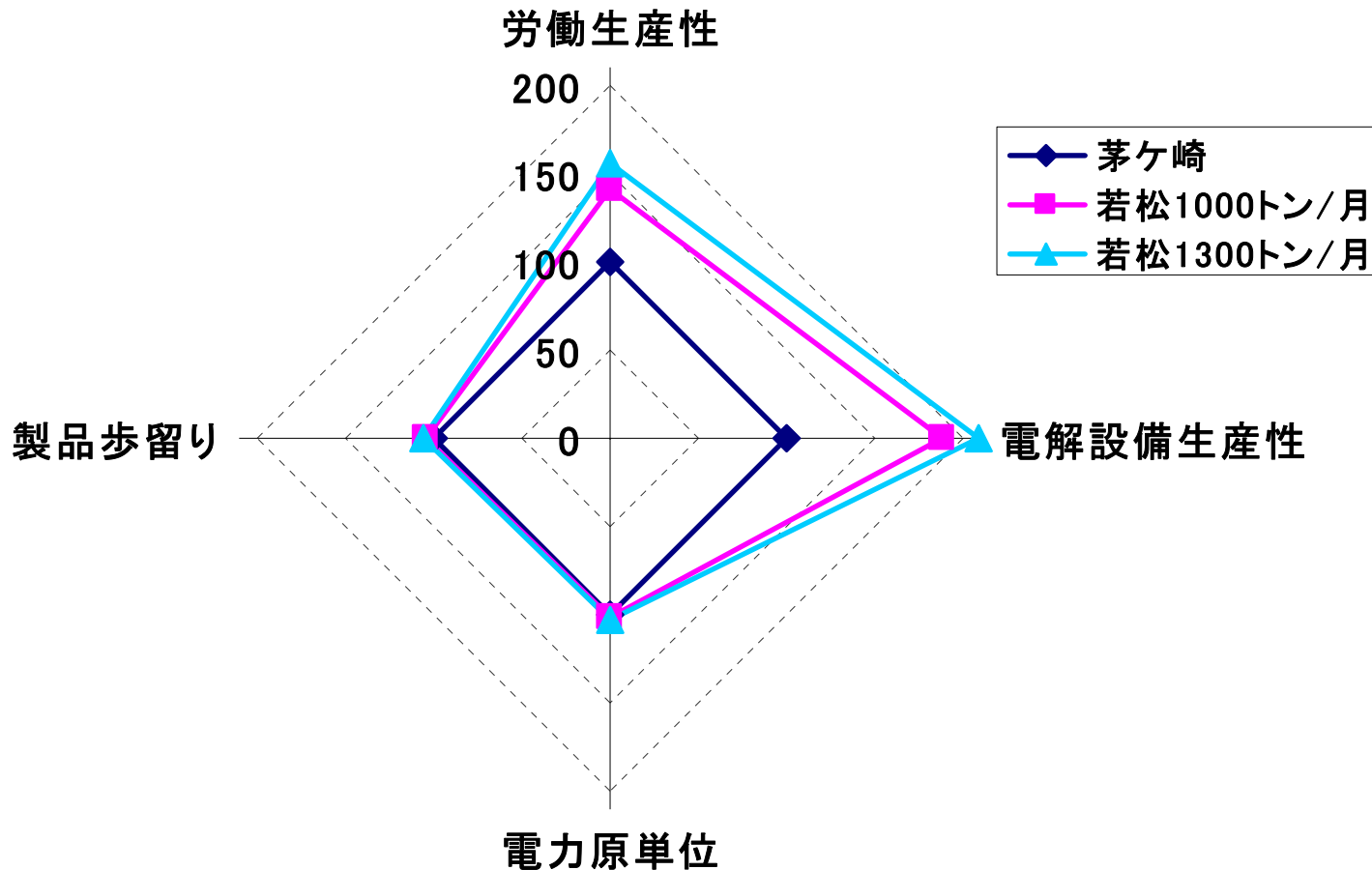
茅ヶ崎：2010年末、旧型設備廃棄

若松：2012年4月、若松工場30%能力増強  
15,600トン/年

金属チタン事業の課題と対応：スポンジチタン

“スポンジチタンの生産性向上”

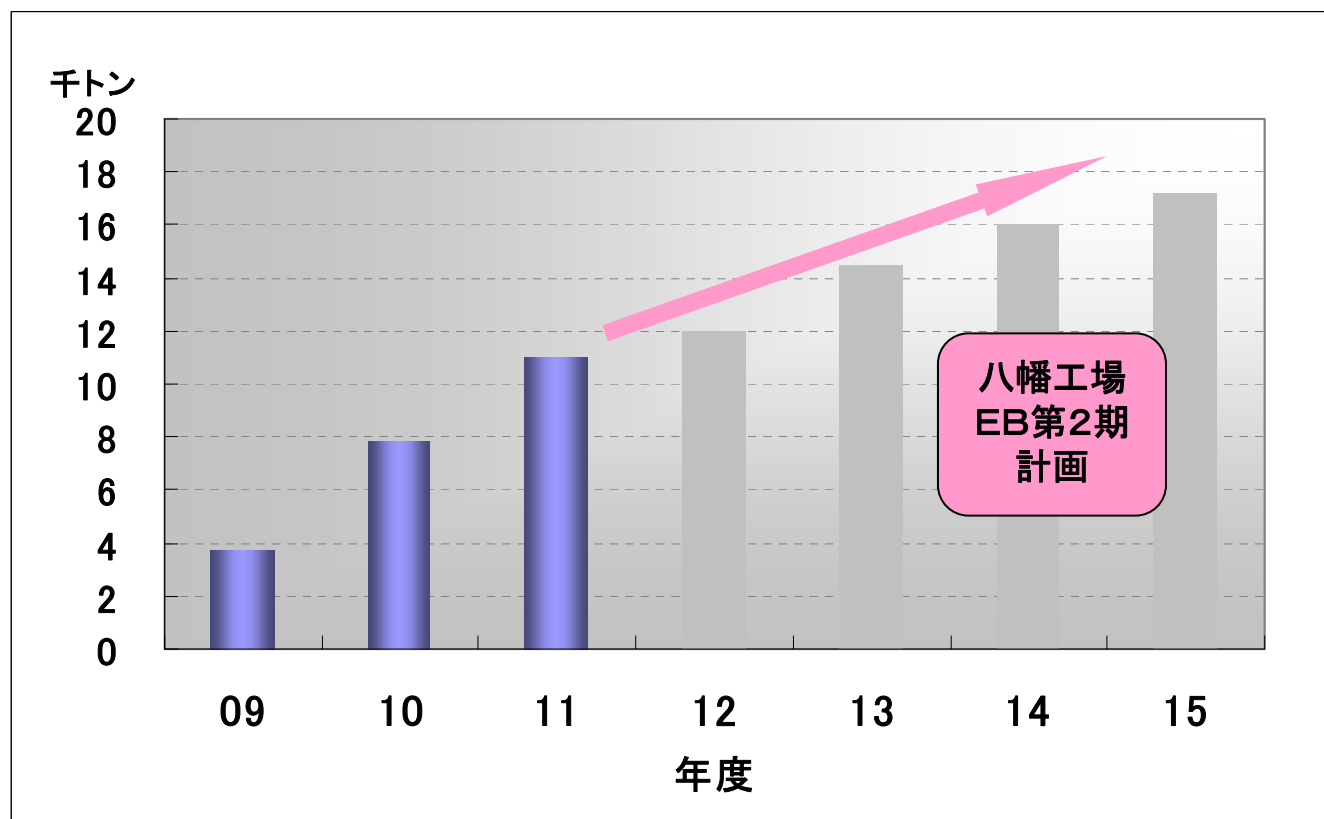
茅ヶ崎工場(BM:2007年度1200トン/月)を100とした若松工場の生産性指数



# 金属チタン事業の課題と対応：チタンインゴット

## “チタンインゴット生産能力の増強検討”

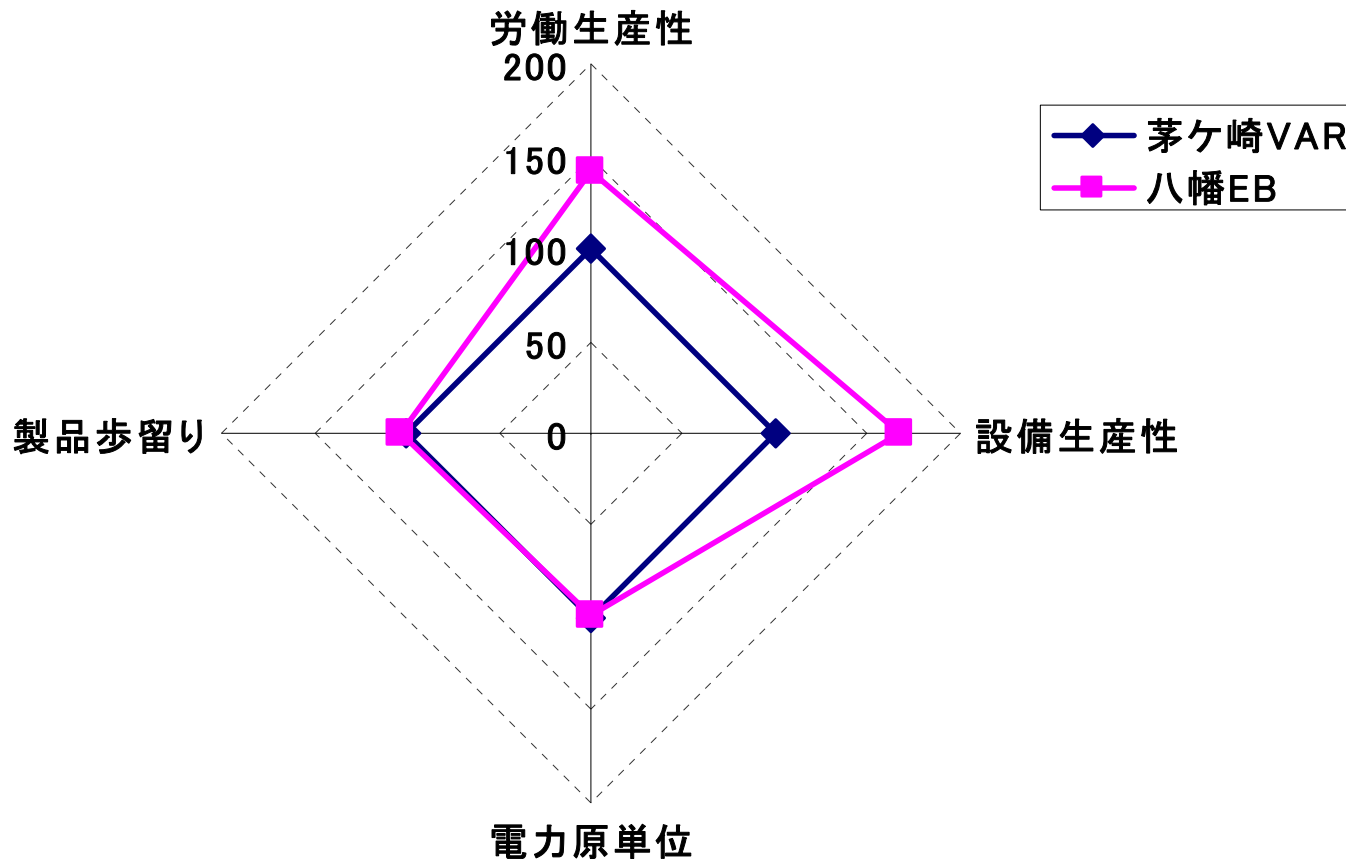
チタンインゴット生産計画



# 金属チタン事業の課題と対応：チタンインゴット

## “チタンインゴット生産性向上”

茅ヶ崎VARを100としたときの八幡EBの生産性(7,000トン/年)

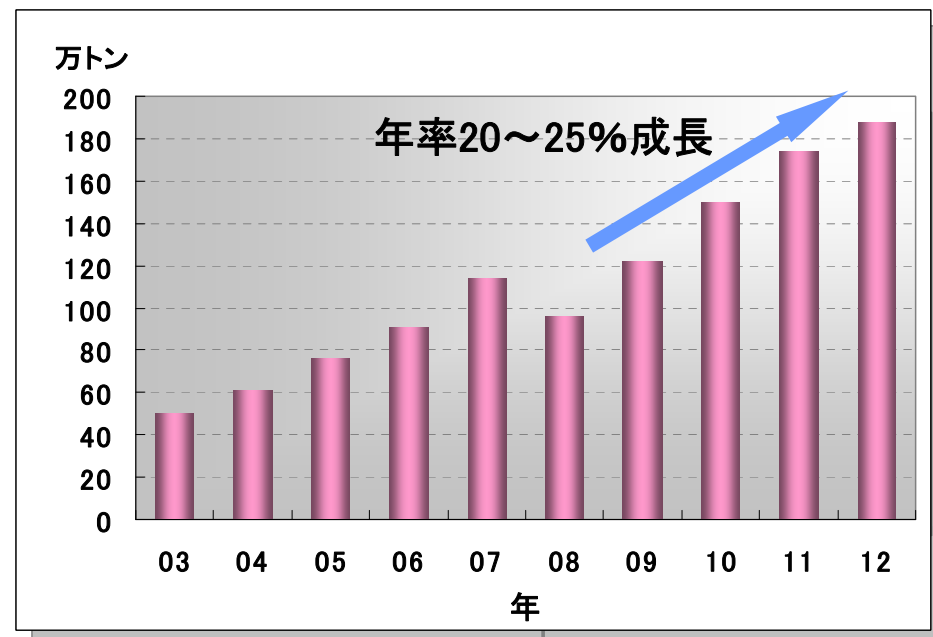


# 金属チタン事業の課題と対応：チタン原料鉱石

**“チタン鉱石の価格上昇、  
スポンジ増産のための安定調達が今後の課題”**

- 新規鉱山開発の遅れ
- 中国の酸化チタン需要の急増

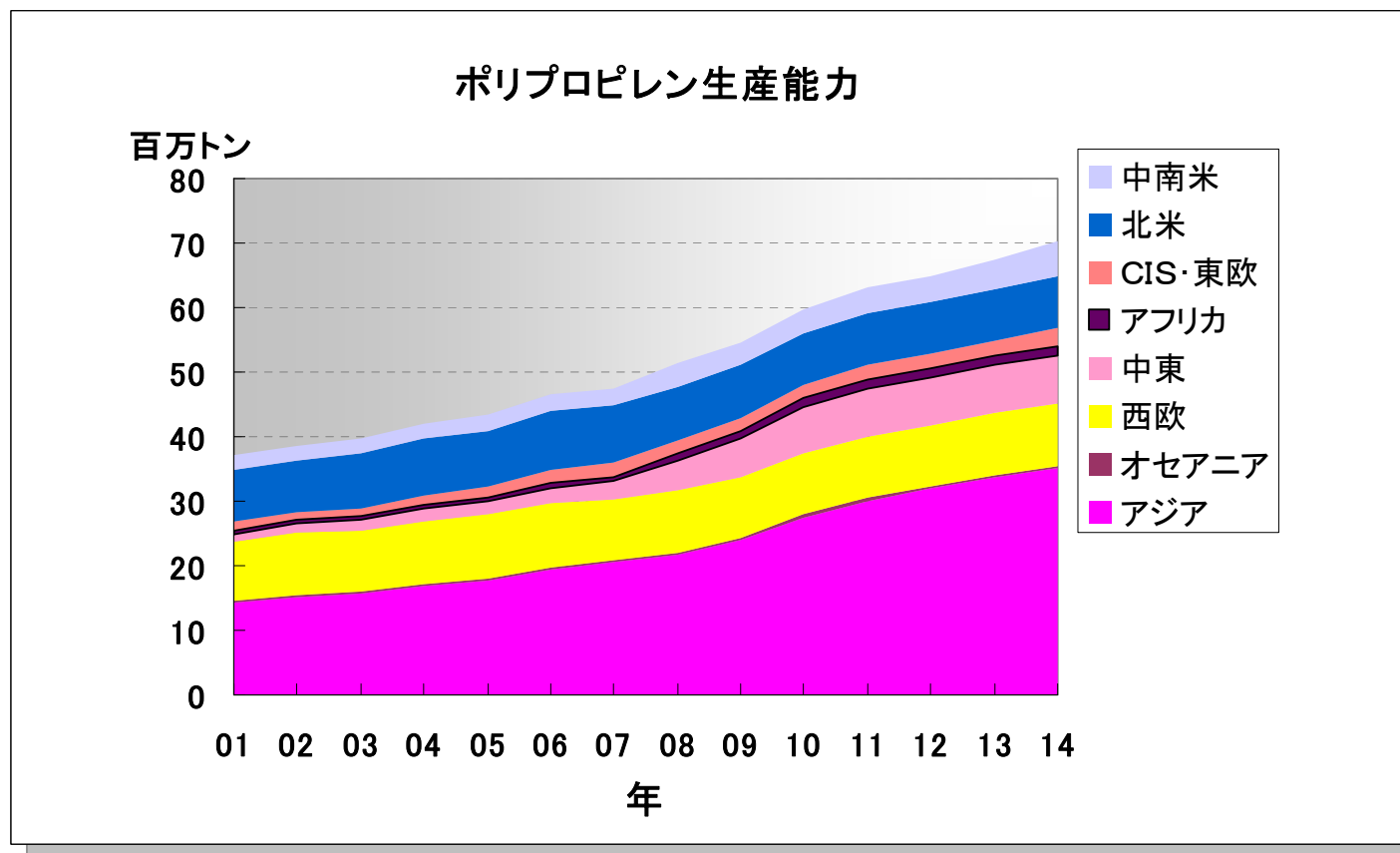
中国の酸化チタン消費量



中国消費量：当社調査・推定

# 機能化学品の事業環境：プロピレン重合触媒

“ポリプロピレン生産能力は中国、インド、中東などを中心に増加”



10-14年ポリプロピレン生産能力増加率：5.2%、中国、インド、中東での増加が顕著

(2010年5月経済産業省「世界の石油化学製品の今後の需給動向」より)

## 機能化学品事業の課題と対応：プロピレン重合触媒

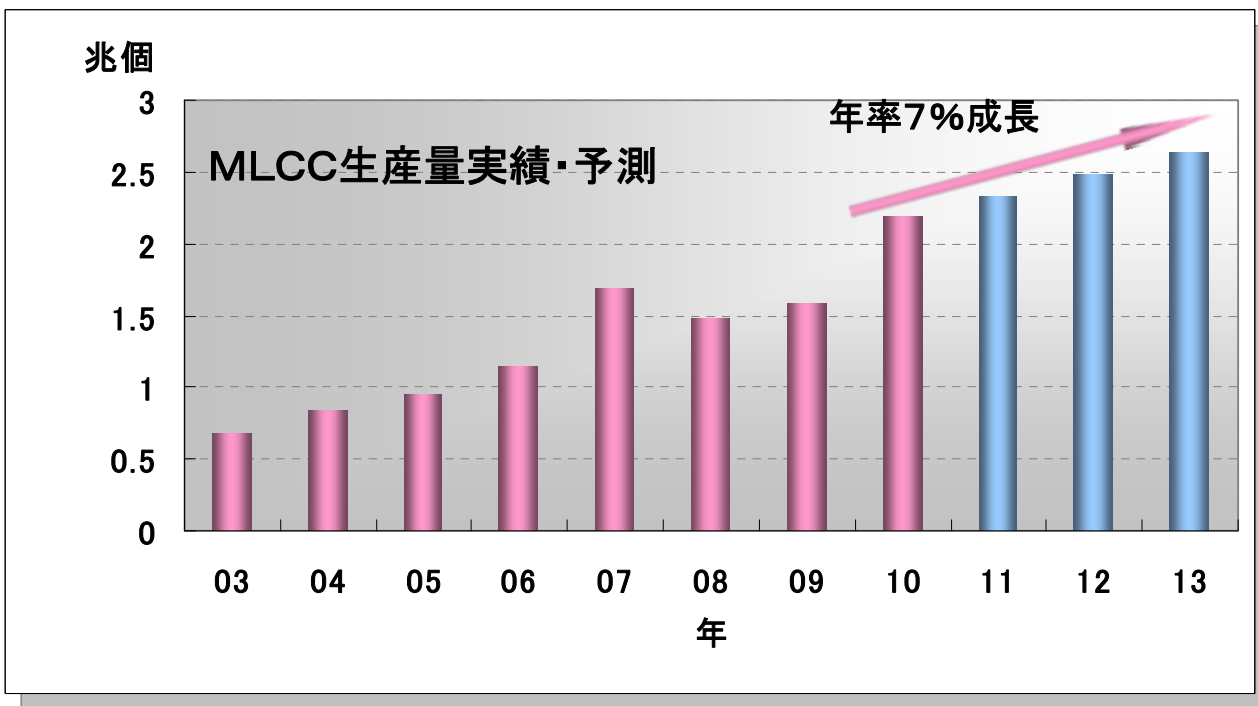
● **ポリプロピレン生産能力増加地域への拡販**

● **環境対応型触媒の開発と拡販**

(欧州REACH規制など化学物質規制への対応)

機能化学品の事業環境: MLCC電極材料 超微粉ニッケル

“スマートフォン、タブレット端末等に牽引されMLCCの需要は好調”



当社推定

MLCC搭載個数増加

携帯電話: 200~300個



スマートフォン: 約500個



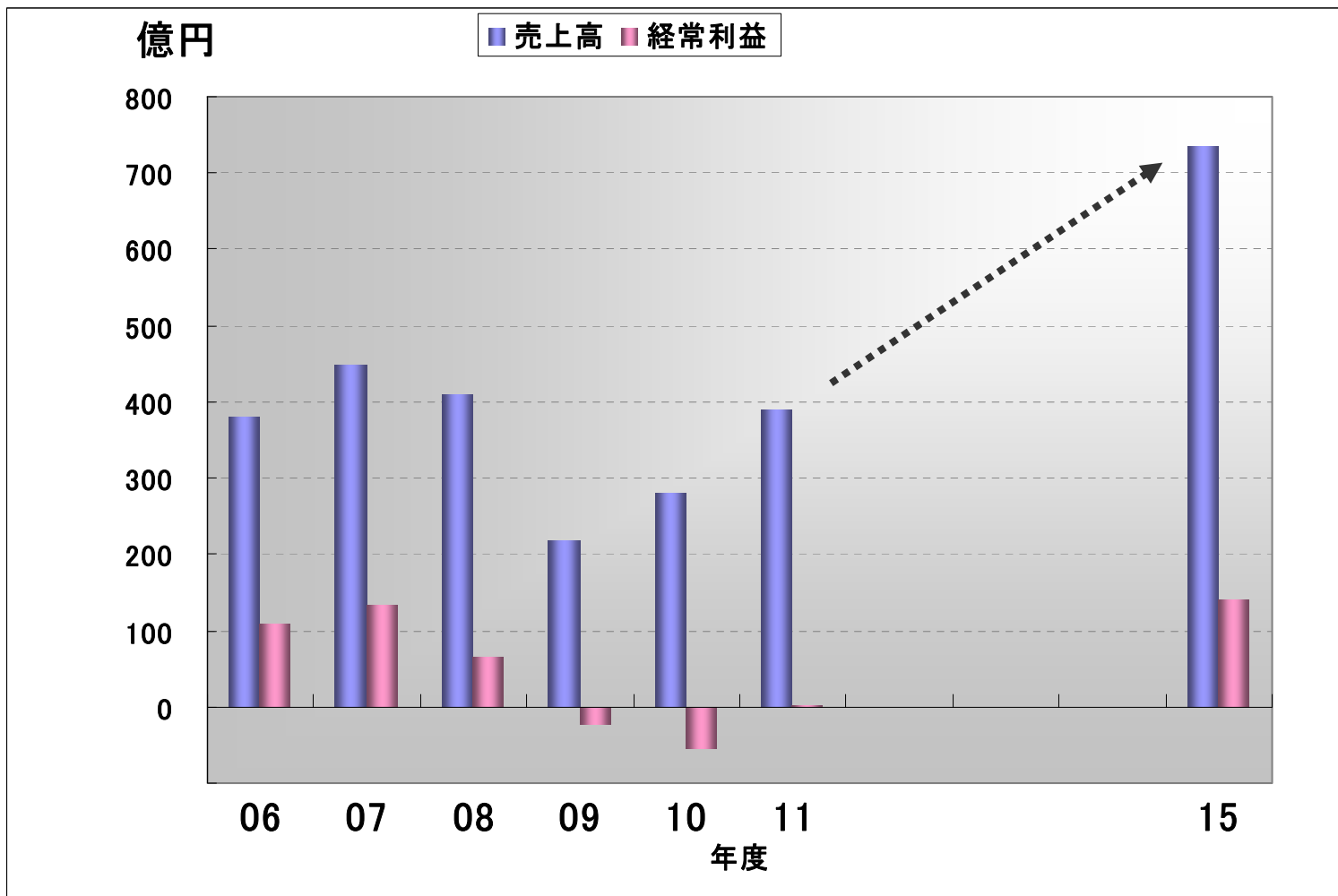
その他電子機器MLCCの搭載個数

- ・自動車 : 約1000個
- ・液晶TV : 700~800個
- ・3DTV : 1000~1100個
- ・PC : 700~800個
- ・タブレット端末: 500~600個

● 需要増に対応した供給体制の整備

超微粉ニッケル能力増強、本年1月より稼動

# 中長期目標



## 本資料に関する注意事項

本資料には連結子会社を含む当社の見通し、目標、計画、戦略など、将来の事業に関する事項が含まれています。これらの将来の事業に関する事項は、当社が現在入手可能な情報に基づく判断および仮定に基づいており、経済情勢、市況、競合状況、為替相場の変動等、多くの不確実な要因の影響を受け、将来における当社の実際の業績または展開と大きく異なる可能性があります。したがって、本資料のみに依拠して投資判断されまことはお控えください。よろしくお願いいたします。